OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』第10号 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2012, 10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21892
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『大阪大学日本語日本文化教育センター　授業研究』

第10号 刊行にあたって

本センターは1954年に留学生別科として設立され、1991年に留学生日本語教育センターへと改組、そして、予備教育開始50周年と本学の国立大学法人化を契機として、2005年４月に教育と研究のいっそうの充実を目指し、日本語日本文化教育センターへと改称いたしました。その後2007年、合併により大阪大学日本語日本文化教育センターとなって、現在に至っています。2011年には「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に認定され、名実ともに日本における日本語・日本文化教育の中心的存在として教育・研究活動を進めています。

これまで、研究留学生、学部留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生などさまざまな留学生を多数受け入れ、その間、留学生の多様なニーズに応えられるよう教育カリキュラムの工夫・改善を重ねてまいりました。よりよいカリキュラムの開発には、日頃の教育の中から生み出されてきた方法論や教材論を共有し、蓄積することが肝要であると考え、本センターでは2003年３月に、専任教員、非常勤講師がともに自由に日頃の成果を発表できる場として本誌の創刊号を刊行いたしました。また、このほかに、教育の質の向上を目指して、さまざまなFD研修活動を行っています。

本年度の大きなトピックは、本センターが「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に認定されたことです。これにより、今後は大阪大学の外からも、多くの留学生を受け入れ、教育を行っていくことになると思われます。そのためには、これまでも進めてきた教育・評価の透明化を、よりいっそう徹底化する必要があるでしょう。『授業研究』ではこれまで、多くの授業の報告が掲載されてきましたが、今後は、そのような観点も積極的に取り入れることが望まれるようになります。そのような情報を共有することによって、より高いレベルでの教育が行えるようになると信じますし、また、それは、「拠点」に認定されたことへの意義につながるのではないでしょうか。それは、我々にとっての意義、ということにもなりますが、そのようなより良い循環の契機となることを願いつつ、本誌第10号をお届けいたします。

2012年３月

『大阪大学日本語日本文化教育センター　授業研究』
編集委員会